

# I 検証に当たって

## 1 検証の総括

令和3年8月11日から15日にかけて前線が本州付近に停滞し、この前線に向かい南から暖かく湿った空気が流れ込んだことで、岐阜県内では特に13日から14日にかけて断続的に激しい雨が降り続いた。その結果、県内のアメダス観測地点（32地点）のうち3分の2以上で8月1ヶ月分の過去最大値を超える降水量となった。

中でも、中津川市付知では「24時間降水量が290.0mm、72時間降水量が456.5mm」、恵那市恵那では「72時間降水量が328.0mm」と、いずれも観測史上1位の値を記録するなど、東濃や飛騨南部を中心に記録的な大雨となった。

この大雨により、県内の広い範囲で土砂災害警戒情報が発表されるなど極めて危険な状態になり、県内各地で土砂災害や河川の溢水、竜巻などにより多くの住家被害、農地や農業施設の被害、護岸の損壊、路側の欠壊などが発生した。また、令和2年7月豪雨災害で被災し復旧工事中の箇所が被災する事態も生じた。加えて、今年5月の災害対策基本法改正で新設された、警戒レベル5「緊急安全確保」が美濃加茂市及び坂祝町において県内で初めて発令された。このような中において、軽傷者はあったものの死者・行方不明者がなかったことは、これまで実施されてきた治水、治山事業の成果、あるいは市町村や地域住民による情報提供や避難誘導などの成果ではないかと考えられる。

今回の大雨について、昨年の「令和2年7月豪雨災害検証」も踏まえて検証を行った。今後、更なる風水害の頻発化、激甚化が懸念される中で、一層防災対策に万全を期すためにも、検証から得られる教訓をこれまでの防災対策に加え、引続き県民、市町村、防災関係機関と一体となって災害対応力の向上に努める必要がある。

## 2 検証の体制、項目及び方法

### (1) 検証の体制

静岡県熱海市における土石流災害の検証のため、部局横断の検証チームを設置するとともに、専門的知見を有する「清流の国ぎふ防災・減災センター」(※)と協働で行っていた検証の体制を活用した。

#### ※清流の国ぎふ防災・減災センター

地域防災力の強化を図るため、実際に災害対応を行う岐阜県と、高度教育機能・研究機能を持つ岐阜大学が共同して、平成27年4月に岐阜大学構内に設置した防災・減災にかかる実践的シンクタンク機関

#### <清流の国ぎふ防災・減災センター参加教員>

|                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 能島 暢呂 (のじま のぶおと)  | 岐阜大学工学部教授               |
| 神谷 浩二 (かみや こうじ)   | 岐阜大学工学部教授               |
| 沢田 和秀 (さわだ かずひで)  | 岐阜大学工学部教授               |
| 吉野 純 (よしの じゅん)    | 岐阜大学工学部准教授              |
| 小山 真紀 (こやま まき)    | 岐阜大学流域圏科学研究センター<br>准教授  |
| 村岡 治道 (むらおか はるみち) | 岐阜大学地域減災研究センター<br>特任准教授 |

## (2) 検証の項目及び方法

令和2年7月豪雨災害の検証結果に基づき、今回の大雨における対応状況について確認し、もう一段の検証が必要な項目を抽出した。その上で、項目ごとに、改めて関係部局において検証シートによりこれまでの取組状況や今回の事象、対応策を整理した。

### 1 実効性のある避難対策の推進

#### (1) 避難情報の発令に関する関係機関の対応

【危機管理部、県土整備部】

#### (2) 住民の避難意識の向上

【危機管理部】

### 2 要配慮者利用施設における避難対策の推進

【危機管理部、環境生活部、健康福祉部、県土整備部、教育委員会】

### 3 防災対策事業の推進

【危機管理部、県土整備部】